

2013年6月号

6月15日(土)発行

釧路湿原国立公園

温根内ビジターセンター

月刊 温根内通信 No. 201



遅い春…そして…

「寒いね」が合言葉のようだった5月の温根内にもようやく春が訪れました。エゾヤマザクラが咲いたのは5月22日。茶色だった風景も着々と色を変え、花の開花情報も少しずつ入り始めました。

6月に入り、思いのほか天気の良い暑い日が続き、今までの遅れを取り戻すかのように一気に景色が変わりました。それとともに毎日新しい自然情報が飛び込み、目が回るような勢いです。

温根内に棲む動植物にとって、忙しく、そして短い夏が始まります。

～温根内ビジターセンター木道周辺の自然情報～



～温根内ビジターセンター周辺の花～



【オオバナノエンレイソウ】
 大花延齡草 ユリ科
 三枚の白い花弁と三枚の大きな葉っぱが特徴的なユリの仲間。ビジターセンター周辺と鶴居軌道跡でよく見られます。



【ミツガシワ】
 三柏 ミツガシワ科
 地図中のピンクの円で囲んだ辺りで見事な群落が見られます。花をアップで見ると毛が密に生えてとてもきれいです。



【ヒメジャクナゲ】
 姫石楠花 ツツジ科
 まだ茶色が中心の湿原の中でピンク色の小さな花が際立ちます。ミズゴケ湿原で見られます。



【クロミノウグイスカグラ】
 黒実鶯神楽 スイカズラ科
 ミズゴケ湿原とその周辺でクリーム色の目立たない花を咲かせる小低木です。実を食用に栽培したものを「ハスカップ」と言います。



【ヒメカイウ】
 姫海芋 サトイモ科
 温根内周辺では主に木道沿いのハンノキ林の中で見られます。ミズバショウに似ていますが、仏炎苞、葉ともに小さいです。



【イソツツジ】
 磯躑躅 ツツジ科
 高山のハイマツ帯などでも見られますが、温根内ではミズゴケ湿原で咲いています。1cm 程の白い花を多数咲かせます。

※温根内木道周辺で咲いている花を折ったり持ち帰ったりしないようお願いします。また、木道から降りて写真を撮ることはおやめください。皆様が気持ちよく散策・観察できるよう、ご理解とご協力をお願いします。

*表紙の写真 上：エゾオオサクラソウ 中左：エゾヤマザクラ 中右：エゾユキウサギ 下：アキタブキの綿毛

○温根内木道周辺で確認された花（5月15日～6月14日） ※和名は五十音順

■アキタブキ■イソツツジ■イタヤカエデ■エゾエンゴサク■エゾオオサクラソウ■エゾカラマツ■エゾノタチツボ
スミレ■エゾニワトコ■エゾネコノメソウ■エゾノクサイチゴ■エゾノコリンゴ■エゾヤマザクラ■エンコウソウ■
オオカササゲ■オオアマドコロ■オオバナノエンレイソウ■オオミミナグサ■オランダガラシ■カキツバタ■カタバ
ミ■カブスゲ■キジムシロ■クロミノウグイスカグラ■コケイラン■コツマトリソウ■サギスゲ■サワシバ■シコタ
ンキンボウゲ■セイヨウタンポポ■タチツボスミレ■ツボスミレ■ツリバナ■ツルスゲ■ナガバツメクサ■ナガバヤ
ナギ■ナナカマド■ネコノメソウ■ハナタネツケバナ■ハルサキヤマガラシ■ヒメカイウ■ヒメシャクナゲ■フデリ
ンドウ■ホソバノヨツバムグラ■マムシグサ■ミズバショウ■ミツガシワ■ミツバツチグリ■ミヤマハコベ■ミヤマ
ザクラ■ヤチダモ■レンブクソウ■ワタスゲ

～温根内ビジターセンター周辺の鳥～

○カラフルな夏鳥たち

温根内の木々が萌黄色に染まるころ、色とりどりの夏鳥が来訪者の目を楽ませてくれます。

「夏鳥」とは春から夏にかけての繁殖期に渡来する鳥で、本州以南から渡って来ます。遠いところでは東南アジアやオーストラリアなどから渡ってくる鳥もいます。繁殖が終わると今度は越冬地へと旅立ちます。

※ビジターセンターでは双眼鏡の貸し出しを行っています。お気軽にご利用ください（貸し出し無料）。



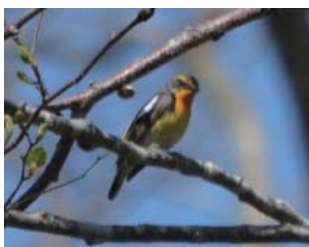
【ベニマシコ】 紅猿子
アトリ科

緑の中に赤いきれいな色
が際立つ夏鳥（一部越冬）
「ピッポ、ピポポ」とやさ
しい声で鳴きます。温根
内周辺ではアキタブキの綿毛に付く種を食べる姿がよく見られます。体長 15 センチ



【オオルリ】 大瑠璃
ヒタキ科

温根内周辺では鶴居軌道
跡の丘陵地側でよく見ら
れます。良く通るきれい
なさえずりでその存在に
気がきます。姿も鮮やかな瑠璃色で、見ても聞いても
楽しめる鳥です。体長 16 センチ



【キビタキ】 黄鶺鴒
ヒタキ科

黒に黄色がとても良く映
える温根内一番のお洒落
さんです。良く通るきれ
いで複雑な声でさえず
ります。温根内周辺ではビジターセンター周辺の森の
中で見られます。体長 14 センチ



【センダイムシクイ】
仙台虫食 ムシクイ科

温根内周辺では目にする
機会が一番多い夏鳥です。
鶴居軌道跡、ハンノキ林
などでみられ、「チヨチヨ
ビー」とさえずるので、姿が見えなくてもその存在に
気づきます。体長 13 センチ

○温根内木道周辺で観察された鳥（5月15日～6月14日）

■マガモ■キジバト■アオバト■アオサギ■タンチョウ■クイナ（鳴き声）■カッコウ（5/22 初認）■ツツドリ（5/18 初認）■アマツバメ（6/2 初認）■ハリオアマツバメ（6/2 初認）■オオジシギ■オジロワシ■チュウヒ■マダラチュウヒ（6/7）■トビ■アリスイ■コゲラ■アカゲラ■ヤマゲラ■チゴハヤブサ■ハシボソガラス■ハシブトガラス■シジュウカラ■ハシブトガラ■ヒガラ■ショウドウツバメ■ヒヨドリ■ウグイス■ヤブサメ■シマエナガ■エゾムシクイ■センダイムシクイ■シマセンニュウ（6/2 初認）■マキノセンニュウ（6/9 初認）■エゾセンニュウ（6/13 初認）■コヨシキリ（5/31 初認）■ゴジュウカラ■キバシリ■ミソサザイ■ノゴマ（5/22 初認）■コルリ（5/26 初認）■ノビタキ■クロツグミ■アカハラ■コサメビタキ（5/23 初認）■キビタキ（5/22 初認）■オオルリ（5/18 初認）■ニュウナイスズメ■ハクセキレイ■ピンズイ■カワラヒワ■ベニマシコ■アオジ■クロジ（5/18 初認）■オオジュリン

○その他の自然情報

■ニホンアマガエル（5/18 初鳴き）■シマヘビ■エゾユキウサギ■エゾシカ■アメリカミンク■ヨツボシトンボ■キタイトトンボ■ハンノキハムシ■エゾハルゼミ（6/6 初鳴き）

※旬の自然情報についてはお気軽にスタッフまでおたずねください。

☆☆自然ふれあい行事「湿原の夏鳥ウォッチング」が開催されました☆☆



5月26日(日)、タンチョウコミュニティ代表の音成氏の案内で、温根内木道周辺にいる夏鳥の観察会を行いました。初めにビジターセンターの前で双眼鏡の使い方を練習し、ある程度慣れたところで観察に入ったので、バードウォッチング初心者の参加者もすぐに双眼鏡で鳥を見つけることができました。音成氏から鳥の観察の仕方や、鳥の名前に関する話も楽しみながら、センダイムシクイやウグイス、ノビタキ、ベニマシコなど、合計で24種類の鳥を確認しました。

☆☆☆☆自然ふれあい行事「春の湿花ハイク」が開催されました☆☆☆☆



6月9日(日)、釧路湿原パークボランティアの大西氏の案内で、湿原の春の花の観察会を行いました。木道周辺は本格的に花が咲き始め、ヨシ・スゲ湿原ではエンコウソウ、ヒメカイウ、ミツガシワやハナタネツケバナなどを観察し、ハンノキがどうして湿原内では高く育つことができなのかななどの話を聞き、ミズゴケ湿原ではワタスゲの綿毛やイソツツジ、世界最小クラスの樹木であるツルコケモモなどの話を聞きました。気温が25℃以上の好天の中、参加者は湿原の花ハイクを楽しみました。

☆☆☆☆☆イベントのご案内(7月) 事前の申し込みが必要です☆☆☆☆☆

○温根内ビジターセンター ⇒お申し込みはこちらまで ☎ 0154-65-2323

♪初夏の湿原花ハイク

〔日時〕7月7日(日) 10:00～12:00 〔定員〕15名(小学生は保護者同伴)
湿原の花のシーズンも本格的になってきました。何種類の花が見られるかな？

♪ホテルウィーク

〔日時〕7月17(水)～21(日) 19:00～20:30 〔定員〕なし(小学生は保護者同伴)
釧路湿原に棲むハイケボタルについてレクチャーを受けてからの観察になります。

○塘路湖エコミュージアムセンター(あるこっと)

⇒お申し込みはこちらまで ☎ 015-487-3003

♪体験講座～擦文土器をつくろう～〈標茶町郷土館共催〉

〔日時〕7月20日(土) 10:00～14:00 〔定員〕15名(小学生は保護者同伴)
〔材料費〕300円 〔場所〕塘路湖エコミュージアムセンター(あるこっと)
擦文時代の土器を作り、その時代の生活を感じます。完成品は乾燥・野焼き後の8月頃に。

珍鳥現る!! (6/7 温根内木道)



【マダラチュウヒ】タカ目タカ科
ロシア極東・中国東北部・朝鮮半島東北部で繁殖する。越冬地は東南アジア方面。国内ではまれな旅鳥。

月刊 温根内通信 No.201

発行：釧路湿原国立公園 温根内ビジターセンター
〒085-0036

北海道阿寒郡鶴居村字温根内

Tel : 0154-65-2323 Fax : 0154-65-2185

E-mail : ovc@hokkai.or.jp

開館時間：10:00～17:00(11月～3月は16:00まで)

休館日：毎週火曜日(夏季繁忙期を除く) 入館無料